

高大接続システム改革の全体イメージ～主体性を持って、多様な人々と学び、働くことのできる力を育む～

高等学校教育

教育内容の見直し

⇒次期高等学校学習指導要領の改訂など

【H26.11～中教審教育課程企画特別部会で審議中】

- ・教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた学習指導要領等の基本的な考え方を明確化
- ・育成すべき資質・能力を踏まえた、教科・科目等の見直し

学習・指導方法の改善と教員の指導力向上

⇒教員の養成・採用・研修の見直しなど
【H27.12～中教審答申】

- ・学習・指導方法の改善に対応するための教員の指導力の向上

多面的な評価の推進

⇒学習評価の改善

- ・生徒の多様な学習活動・成果が評価され、指導に反映されるよう、学習評価の在り方や指導要録を改善

⇒多様な学習成果を測定するツールの充実

- ・生徒の基礎学力の確実な習得とそれによる学習意欲の喚起のための高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入
- ・農、工、商業などの検定試験や英語などの民間検定の利活用の促進

大学入学者選抜

個別選抜の改革

ポリシーに沿った選抜

各大学において、アドミッション・ポリシーに基づき、例えば、下記の方法からどのような比重で活用するのか等を決定・公表

- ア 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の結果
- イ 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
- ウ 高校時代の学習・活動歴
 - ・調査書
 - ・活動報告書(個人の多様な活動、部活動・ボランティア活動・生徒会活動等)
 - ・各種大会や顕彰等の記録
 - ・資格・検定試験の結果
 - ・推薦書等
- エ エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
- オ 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入

- ◆調査書の改善
- ◆個別選抜の改革の支援(アドミッション・オフィスの整備・強化、新たな評価手法の調査研究等)

大学教育

各大学の教育理念に基づく三つのポリシーの一体的な策定を法令上位置付け、ガイドラインを策定

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

右の2ポリシーを踏まえ、以下の3要素について各大学でどのような能力をどのような方法で評価するのかを明確化

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力
 - ※①を基盤にして答が一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

各大学において、それぞれのディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを明確化

- カリキュラムの体系化
 - ・多様な背景を持つ学生を大学教育に円滑に移行させるための「初年次教育」の充実
 - ・個々の学生の能動的な学修を促進するためのカリキュラムの工夫
 - ・広く深い学修を重ねられる学修環境の整備など

○卒業後を見据えた社会との連携強化

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各大学において、どのような能力を身に付けた者の卒業を認定し、学位を授与するのかを明確化

○卒業に必要な要件の明確化と厳格な卒業認定・学位授与

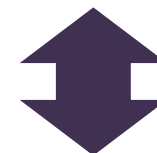
- ◆三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドラインの策定
 - ・三つのポリシーを起点とした大学教育に関する内部質保証の確立
 - ・各ポリシーに照らした取組の適切性についての自己点検・評価
 - ・分かりやすく積極的な情報公開
- ◆ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)の充実
- ◆認証評価制度の改善(三つのポリシー、内部質保証を評価等)

右の3要素を左のような方法で評価

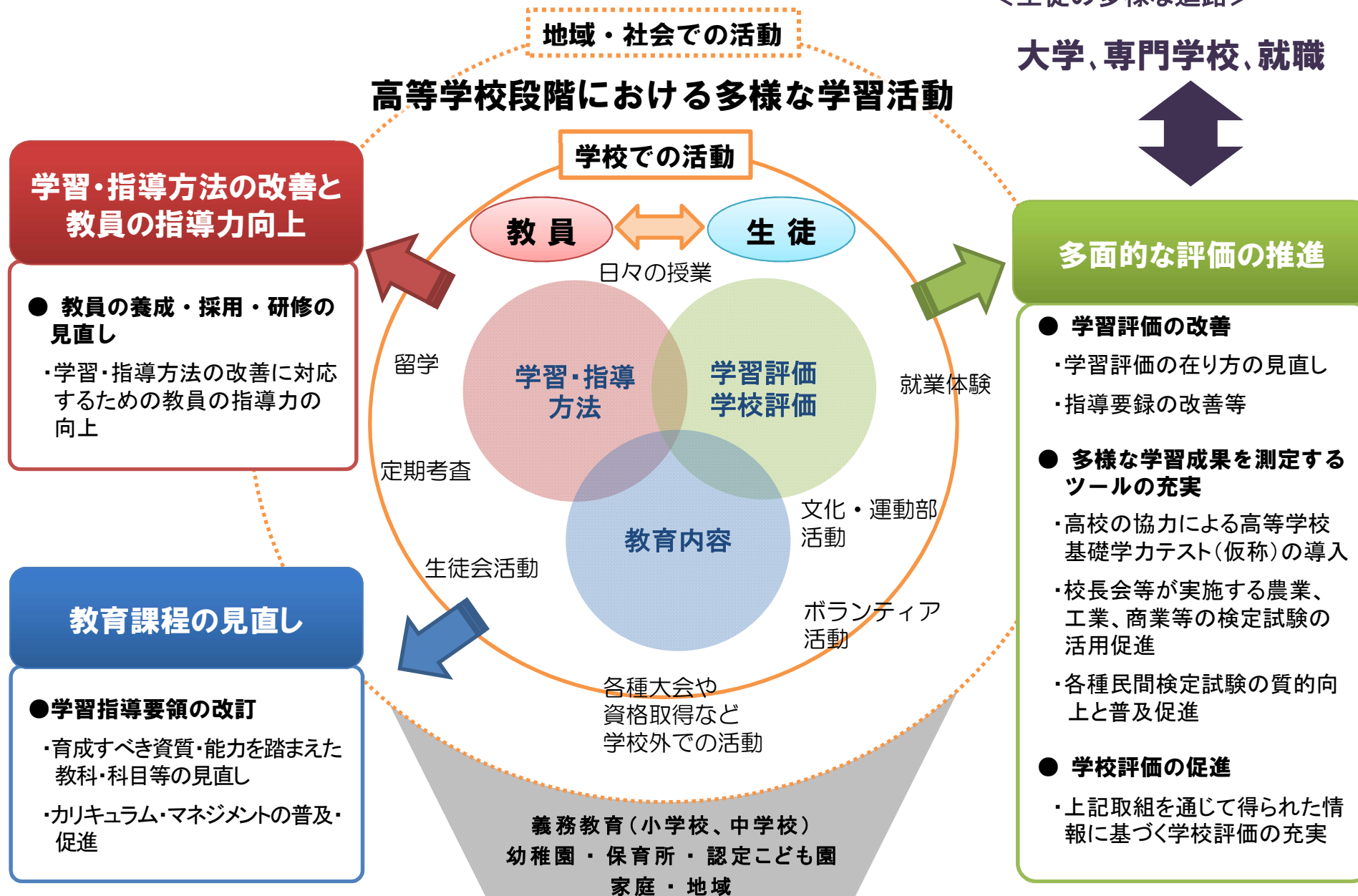
～ ICT活用をはじめとする様々な教育活動を通じ、生徒の主体的・協働的な学習の確立を目指す～

<生徒の多様な進路>

大学、専門学校、就職

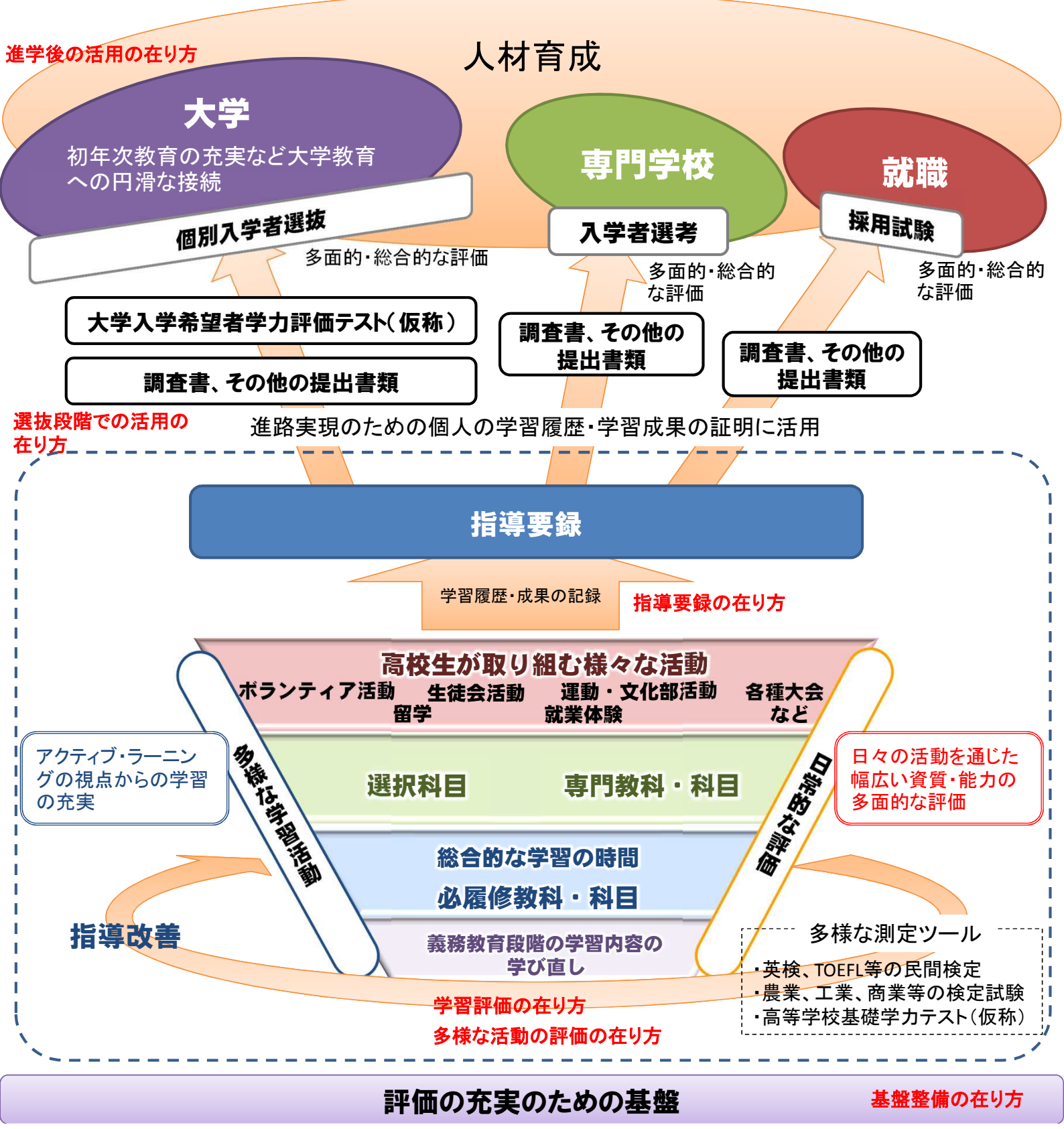


高等学校段階における多様な学習活動



☆日々の活動を通じて育成される幅広い資質・能力について多面的に評価
 →学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度等の生徒への指導改善や教材研究等への反映
 →大学等への進学や就職等における個人の学習履歴・学習成果の証明に活用
 →高等学校における学習と大学における学修等との接続のために活用

高等学校段階の教育・評価の充実から、進学・就職時における多面的・総合的な評価の推進、その後の教育活動・人材育成までを視野に入れた評価の仕組みを構築



＜現状における課題＞

- 学校外での学習時間が全くない者が全体の約4割
 - 学力中間層の学習時間が減少
- ➡ 少子化が急速に進む中、このような状況を放置することは生徒本人とともに 我が国社会にも悪影響を及ぼす恐れ

- 生徒の**学習意欲の喚起、学習改善**を図ることによる**基礎学力の確実な育成**
- **修学支援の大幅な充実**に見合う**教育の質向上**が不可欠

課題解決に向けて

- 教育再生実行会議報告や、中央教育審議会高大接続答申に基づく『**高大接続改革実行プラン**』の策定
- 上記プランに基づく **高大接続システム改革会議での検討**
- 国の議論を踏まえ、都道府県など**設置者ごとの高校教育充実に向けた計画の立案**

国・設置者からの支援

国・設置者からの支援

- アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善、義務教育段階を含めた学び直しや、教科・科目等の見直し等の**次期学習指導要領の改訂、教科書の作成・検定・採択・供給**など
- 高校教員の指導力向上に向けた**養成・採用・研修の一体的な改革の推進**
- 教員配置等を通じた**指導体制の整備**
- 設置者が設定した目標・計画に基づく **様々な教育施策**の展開

➢ 学校ごとの**教育目標の設定、教育課程の編成、指導計画の作成・見直し**など

Plan *Do*

➢ アクティブ・ラーニングの視点からの学習の充実を図るとともに、義務教育段階を含めた学び直し等を行う授業など**多様な教育活動の展開** など

学校現場における『PDCAサイクル』の確立

➢ 学習評価の結果や把握した基礎学力の定着度に基づく改善点等の**生徒への指導改善**や **教材研究**等への反映 など

Action *Check*

➢ 日々の学習成果の指導要録への適切な反映など**多面的な学習評価の充実**

➢ **高等学校基礎学力テスト(仮称)**や、校長会・民間が実施する検定試験等を活用した **生徒の学習成果の把握** など

- 様々な評価結果等から明らかになった指導困難校など支援を要する**高校に対する教員加配や補習指導員の配置など、指導体制の充実**に向けた支援とともに、**今後の教育施策の検証・改善**
- 様々な評価結果等に基づき、**設置者として計画等の改善や教員研修の充実**

国・設置者からの支援

国・設置者からの支援

- 多面的な評価を行うための**指導要録の改善**
- 特に**高等学校基礎学力テスト(仮称)**の導入は、①高校卒業後の社会生活で求められる基礎学力の定着度を確保するための**良問提供**や、②**CBT-IRTの導入**による**実施時期の柔軟化**及び**指導等に生かすためのテスト結果の速やかな返却**、③得意分野に関する**類題の提供**等、学校における指導改善を支援

基本方針

- 量的拡大をベースとした施策から、**多様化した高校における「質的充実」に向けた施策への転換**を目指す。
- 高校において、各学校の特性に応じた**魅力ある学びを提供するなどの方策を推進**するとともに、**生徒の基礎学力の把握・定着のための仕組みを構築**する。
- 大学において、多様な入学生に対応した**初年次教育の見直し・充実など、大学教育の改革**を目指す。

義務教育(小・中学校)

- ◆ 多様な高校入試
- ◆ 高校進学率 (H27)

98.5%



高等学校

高校生の実態

- AO・推薦入試を経由する大学進学者は約4割まで増加
 - 授業外の学習時間は約6割の高校3年生が1時間未満
 - ・ 約半数の高校生が読書をしない
 - ・ 高校生のスマホ等の利用は、男子平均3.8時間、女子平均5.5時間
- ⇒ 高校生の基礎学力や学習意欲が大幅に低下していないか。
高校生の時間が有効に活用されていないのではないか。



県教委等

- 高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備
- 学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組



基礎学力テストの導入意義

社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、取組が進められるよう、

「定着度合いの目安」

を把握する仕組みを構築



生徒



基礎学力の定着度合いの確認を通じ、興味・関心を引き出し、**自ら「学びの質の向上」に取り組める**ようにする

- 生徒個人の基礎学力テストの希望 受検も可能 (各県に受検会場を設置)
- 高卒程度認定試験との連携を検討 (安易な高校卒業資格の取得の助長につながらぬよう配慮)

約72万人 (22%)

専門高校

- SPH事業等を通じた専門的な教育の充実 (※農業高校での先進農家の経営実践の学習等)
- 各専門分野で校長会等が実施する検定等を活用した多面的評価の推進 (※情報技術検定、簿記等)

基礎学力テストの活用

- 職業人としての専門性の育成を図る上で、必要となる基礎学力の確実な定着を目指す学校による活用

基礎学力テストの活用以外

○ 少人数指導や補習の実施など、きめ細やかな学習指導による基礎学力の定着に向けた取組

約330万人 (78%)

普通高校、総合高校

- 生徒の能力・適性等に応じた学力向上の取組の推進 (※SSHやSGH事業の推進、授業充実の工夫、ICT活用、学習評価の改善)

○ 重点支援校を指定し、教員配置や教育課程を工夫・充実

- 多様な入試を経て入学した生徒に対して義務教育の内容も含めた学び直しの徹底 (※補習や学校設定科目の活用等)

定時制・通信制

- 広域通信制高校の教育運営改善等をはじめ、教育の質の確保に向けた取組の推進

- 基礎学力テストの活用等を通じて更なる教育の質の向上

(キャリア教育等の充実とあわせて)

社会での活動等に接続

《参考》

- 職場や地域社会で求められる基礎学力のイメージ
- ・ 読み、書き
- ・ 数的な処理能力
- ・ 基本ITスキル、社会人常識 等

約58万人 (55%)

大学・短大

(新たな高等教育機関の検討を含む)

- ・ 入学者レベルに応じた初年次教育の見直し・充実など
- ・ 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入学者選抜

約23万人 (22%)

専門学校・各種学校

約19万人 (18%)

就職

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の各教科において、 大学教育を受けるために必要な能力としてどのような力を評価すべきか？（案）

1. 総論

今後の社会の在り方やその変容の動向を踏まえれば、大学入学者選抜においては、大学における学修や社会生活において必要となる問題発見・解決の能力、すなわち、主体性を持って多様な人々と協働しながら、問題を発見し、その解決策をまとめ、実行するために必要な諸能力を有しているかどうかを評価することが一層重要となる。（詳細は次ページのイメージ参照。）

⇒ そのためには、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」においては、各教科の知識をいかに効率的に評価するかではなく、特に、

- ①内容に関する十分な知識と本質的な理解を基に問題を発見・定義し、
- ②様々な情報を統合し構造化しながら問題解決に向けて主体的に思考・判断し、
- ③そのプロセスや結果について表現したり実行したりするために必要な諸能力をいかに適切に評価するかを重視すべき。

このような諸能力を働かせることが必要となる状況をいかに設定し評価するかという観点から作問に取り組むべき。

⇒ 大学教育においてはこうした諸能力をさらに磨いていくことを重視する、また、高等学校教育においても、多様な進路に応じて必要な能力を伸ばす中で、こうした諸能力の育成を重視するという、メッセージとセットで打ち出すことが必要。

2. 求められる諸能力の育成のために各教科で重視すべきプロセス

<国語>

例えば、
多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し、概要や要点等を把握するとともに、他の知識も統合して比較したり推論したりしながら自分の考えをまとめ、他の考えとの共通点や相違点等を示しながら、伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法等を用いて効果的に伝えること。

<数学>

例えば、
事象から得られる情報を整理・統合して問題を設定し、解決の構想を立て、数量化・図形化・記号化などをして数学的に表現し、考察・処理して結果を得、その結果に基づきさらに推論したり傾向や可能性を判断したりすること。

<理科>

例えば、
観察した自然事象の変化や特徴を捉え、そこから得られる情報を整理・統合しながら、問題を設定し仮説を立て予測し、それらを確認するための観察・実験を計画して実践し、得られた結果から傾向等を読み取ったり、モデルや図表等で表現したりするとともに、結果に基づき推論したり、改善策を考えたりすること。

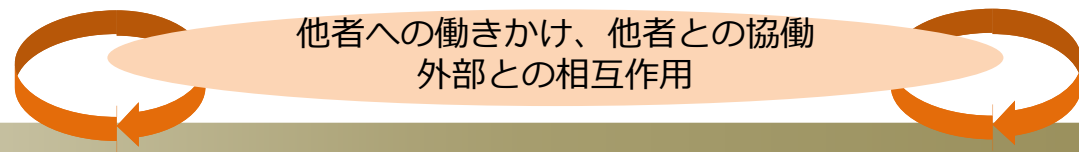
<地理歴史（世界史）>

例えば、
文章や年表、地図、図表等の資料から、歴史に関する情報を整理し、その時代の人々が直面した問題や現代的な視点からの課題を見だし、その原因や影響、あるいは解決策等についての仮説を立て、諸資料に基づき多面的・多角的に考察し、その妥当性を検証し考えをまとめ、根拠に基づき表現すること。

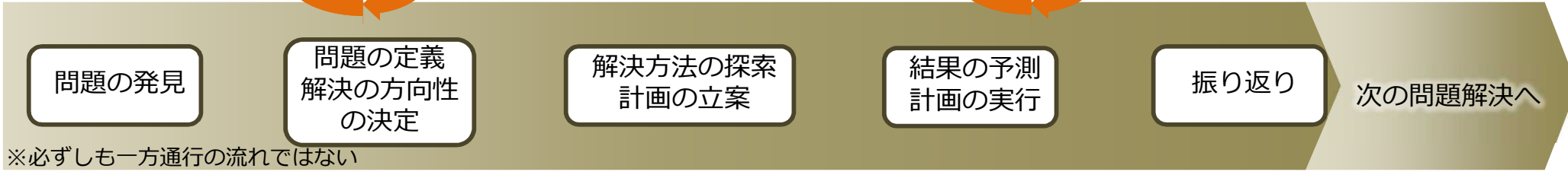
<英語>

例えば、
多様な見方や考え方が可能な幅広い話題・問題に関する情報を聞いたり英文や図表などを読み取り、情報を整理しながら概要や要点を把握し、得られた情報を統合するなどして活用しつつ、様々な見方や考え方の共通点や相違点等を示しながら、自分の考えや主張を適切な語彙、表現、文法等を用いて効果的に伝えること。

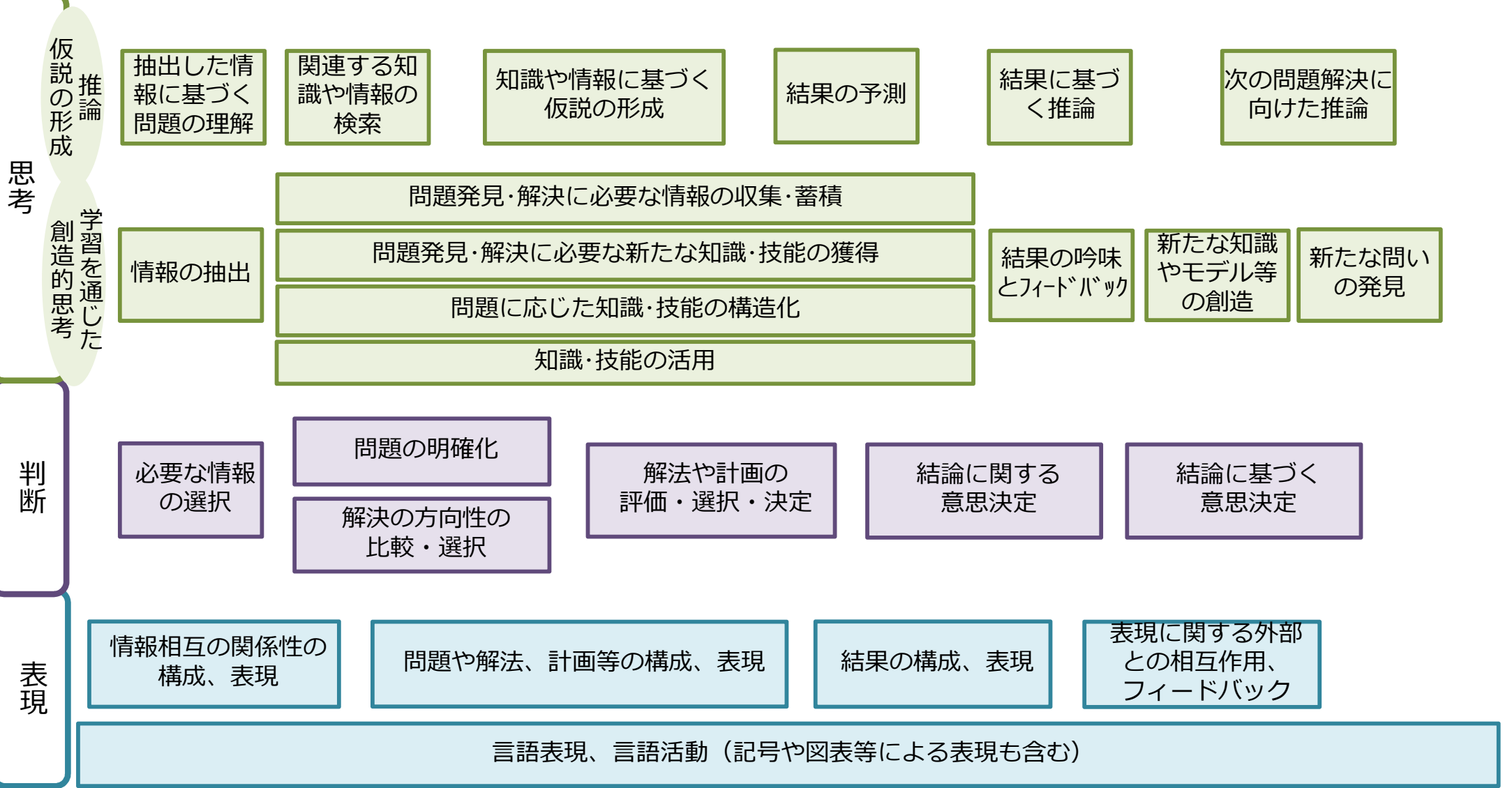
中央教育審議会教育課程企画特別部会の各教科等別WGにおいて、資質・能力や問題発見・解決の学習プロセスの中で働く思考・判断・表現等を検討中。



問題発見・解決
のプロセス



プロセスの中で働く思考・判断・表現等のうち、特に重視すべきものの例



3. 求められる諸能力の育成のために各教科において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

※以下の各教科の内容については、次期学習指導要領に関する中央教育審議会における審議も踏まえ、見直しを行う必要

国語

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し、概要や要点等を把握するとともに、

他の知識も統合して比較したり推論したりしながら

自分の考えをまとめ、

他の考えとの共通点や相違点等を示しながら、

伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法等を用いて効果的に伝えること

ア) 与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力

イ) 文章や図表等の情報を整理し、解釈する力

ウ) 文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力

エ) 目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連づけたりする力

オ) 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力

カ) 得た情報を基に、立場や根拠を明確にし、論理的に思考する力

キ) 上記ア)～カ)のプロセスを経て、問題解決のための方法や計画(自分の考え)をまとめる力

ク) 上記ア)～キ)のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力

ケ) 受け手の状況を踏まえて表現する力

コ) 表現した結果を振り返り、さらに改善する力

数学

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、
事象から得られる情報を
整理・統合して問題を設定し、
解決の構想を立て、
数量化・図形化・記号化などをして数学的
に表現し、
考察・処理して結果を得、
その結果に基づきさらに推論したり傾向
や可能性を判断したりすること。

- ア) 問題文・図形等の事象やその数学的表現から情報を読み取る力
- イ) 事象から問題解決に必要な情報や条件を抽出・収集したり、仮定をおいて考えたりする力
- ウ) 情報を整理・統合して問題解決の方針を立てる力
- エ) 関係や命題等を、適切な数学的表現を用いて表す力
- オ) 数学の知識や技能を用いて論理的に考察・処理して結果を得る力
- カ) 得られた結果を吟味し、それを基にさらに推論したり、概念・法則・傾向等を見出して体系化したりする力
- キ) 数学的な過程や結果を他者に分かるように伝える力

理科(物理)

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

観察した自然事象の変化や特徴を捉え、

そこから得られる情報を整理・統合しながら、

問題を設定し仮説を立て予測し、

それらを確認するための観察・実験を
計画して実践し、

得られた結果から傾向等を読み取ったり、

モデルや図表等で表現したりするとともに、

結果に基づき推論したり、改善策を考え
たりすること。

ア) 与えられた状況の中から、必要なデータや条件を抽出・収集する力

イ) 抽出・収集したデータについて、それらの間の関係や傾向を見出す力

ウ) 仮説を立てる力

エ) 仮説を確認するための方法を立案し実践する力

オ) 得られた結果にもとづいて仮説の妥当性を検討する力

カ) 検討結果を、グラフや図などを用いて分かりやすく表現する力

キ) 全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりする力

地理歴史(世界史)

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

文章や年表、地図、図表等の資料から、歴史に関する情報を整理し、

その時代の人々が直面した問題や現代的な視点からの課題を見だし、

その原因や影響、あるいは解決策等についての仮説を立て、諸資料に基づき多面的・多角的に考察し、

その妥当性を検証し考えをまとめ、根拠に基づき表現すること。

ア) 歴史資料を読みとき、歴史に関する重要な情報を取り出す力

イ) 資料(文字資料・絵画・写真・歴史地図)と歴史上の事象との関わりを推論する力

ウ) 歴史上の出来事を時系列的に分析したり、因果関係を分析したりする力

エ) 歴史上の出来事や事象の因果関係、歴史上の出来事と現在との関係を多面的・多角的に考察する力

オ) 日本を含む世界の歴史の複合性や関連性を理解する力

カ) 資料等の根拠に基づいて、論理的に表現する力

例えば、

多様な見方や考え方が可能な幅広い話題・問題に関する情報を聞いたり英文や図表などを読んだりして、

情報を整理しながら概要や要点を把握し、

得られた情報を統合するなどして活用しつつ、様々な見方や考え方の共通点や相違点等を示しながら、自分の考えや主張を適切な語彙、表現、文法等を用いて効果的に伝えること

〈「聞くこと」〉

ア) まとまりのある英文や対話文などを聞き、必要な情報を得たり、概要や要点を把握して思考・判断する力

〈「読むこと」〉

イ) まとまりのある英文や図表を読み、必要な情報を検索したり、概要や要点を把握して思考・判断する力

〈「話すこと」〉

ウ) 多様な見方や考え方ができる時事問題や社会問題などについて、自分の意見や考えなどを、即興で話したり、ある程度準備をして適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に話して伝える力

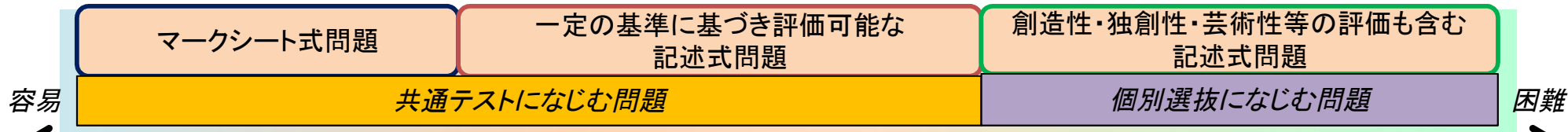
〈「書くこと」〉

エ) 多様な見方や考え方ができる時事問題や社会問題などについて、自分の意見や考えなどを、論点や根拠を明確にしながら、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に書いて表現する力

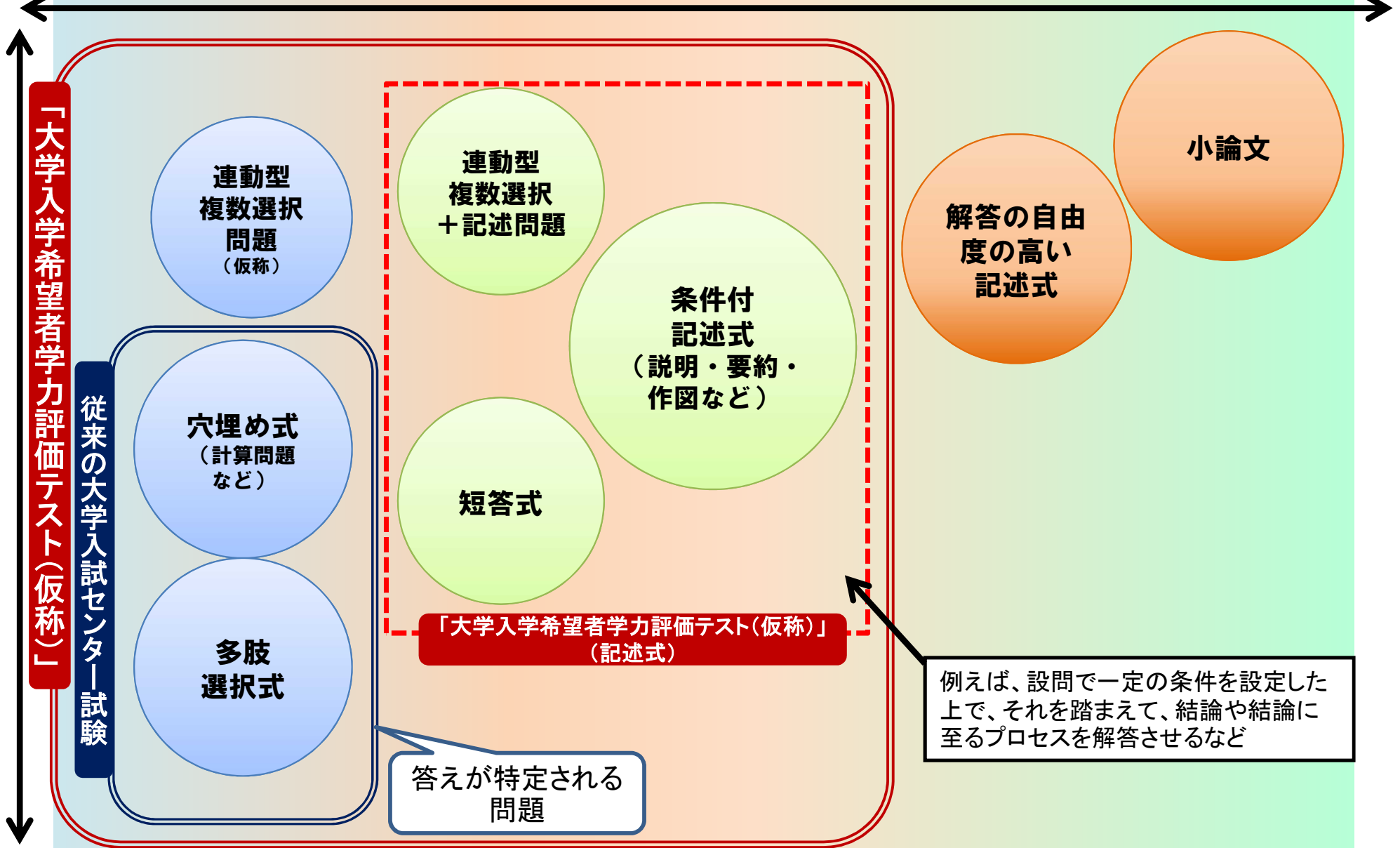
〈「技能統合」〉(4技能のうち2技能以上を組み合わせると統合的に活用)

オ) 聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握するとともに、他の情報も統合しながら自分の考えをまとめ、根拠を示しながら話したり、書いたりして表現する力

採点可能性



思考力・判断力・表現力
知識・技能
評価の対象となる能力



※上記、○囲み部分は、あくまで問題形式の一例として挙げたもの。